

令和 7 年度第 1 回世田谷区立図書館運営協議会

日 時：令和 7 年 6 月 6 日（金）午後 6 時30分～午後 8 時31分

場 所：教育会館 3 階大会議室「ぎんが」

出席者：委員（12名）

【学識経験者】糸賀委員（会長）、石原委員

【公募区民】高良委員、三浦委員、宮岸委員、吉田委員

【社会教育関係者】佐藤委員

【教育機関関係者】豊泉委員

【図書館活動団体関係者】稲葉委員、結城委員

【図書館関連事業関係者】中垣委員

【世田谷区立小中学校長】前田委員

事務局（2名）

地域図書館館長（4名）、地域図書館副館長（1名）

・世田谷図書館長、砧図書館長、玉川台図書館長、代田図書館副館長、烏山図書館長

中央図書館（3名）

・図書館運営係長、図書館事業推進担当係長（2名）

次 第：

1 配付資料について

2 第3次世田谷区立図書館ビジョンに基づく各館の取組みの評価・検証

（対象館：世田谷図書館、砧図書館、玉川台図書館、代田図書館、烏山図書館）

3 その他（事務連絡）

午後 6 時30分開会

○会長 それでは、定刻となりましたので、令和 7 年度第 1 回世田谷区立図書館運営協議会を始めさせていただきます。多くの委員の皆さんにお集まりいただきまして改めて感謝申し上げます。

本日の出席は、委員のうちの12名が御出席で、残念ながら副会長は欠席という連絡がございました。

本協議会の会議はこれまでどおり、公開です。速記者の方が入っており、会議録として資料を含めて、後日ホームページで公開されます。

また、本日も傍聴の方が入っていらっしゃいます。何名の方の傍聴がありますでしょうか。

○事務局 本日、4 名の方が傍聴されています。

○会長 ありがとうございます。

既に御案内のとおり、本日は世田谷区内の各図書館の評価、検証ということで、世田谷区にある15館の地域館のうちの 5 館を取り上げます。それぞれの地域図書館の館長さんないしは副館長さんの場合もありますが、5 名の方が既にお越しいただき、着席されています。

なお、本協議会の委員といたしまして、本日、メンバーの入替えがございます。世田谷区の校長会から御参加いただいている校長先生ですけれども、1 年ごとに小学校と中学校で入れ替わることになっております。今年度は中学校に替わっておりまして、委員として出席されております。

また、事務局の中央図書館長も新たに 4 月から替わられております。

それぞれ簡単に自己紹介していただければと思います。

(自己紹介省略)

○会長 ありがとうございます。委員は、前もこの協議会にお出になっていらっしゃいましたよね。

○委員 一昨年度、そうですね。

○会長　ですから、ある程度協議会の雰囲気はお分かりだとは思いますが、どうぞ、引き続きよろしくお願いいたします。

なお、今、事務局からも御案内がありましたように、これから各館の評価ということはこの協議会でやってまいります。地域館の館長さん、そして中央図書館の係長さんも御出席ということで、それぞれに図書館の在り方について、ある意味ではストレートにここで物を言うことができる場ということになりますので、どうぞ闊達な御議論をお願いしたいと思います。

それでは、早速、お手元の次第に沿って今日の会議を進めさせていただきます。

まず1、配付資料について、事務局から説明をお願いいたします。

○事務局　どうぞよろしくお願いいたします。

配付資料なんですけれども、令和6年度の第3次図書館ビジョンの行動計画に掲げる取組内容の確認・意見シート、昨年度行ったものです。こちらの最終版と、令和6年度の区立図書館のアンケート調査結果、それから世田谷区子どもの読書に関する実態調査報告書、こちら3点を今回お配りさせていただいております。

まず、昨年度行いました図書館ビジョンの行動計画に掲げる取組内容の確認・意見シート（最終版）についてでございます。皆様からも御意見をいただいたものを取りまとめしております。メールで先日送付させていただいたものから、御意見や御提案のところの記載のお名前など、そういったところを少し公表用に最終版ということで削除させていただいているものでございます。こちらは本日お渡しさせていただきますので、昨年度はこういった第3次図書館ビジョン行動計画について様々な意見をいただきましてありがとうございました。今年度は、先ほど御紹介があったように各館の評価となります。ぜひ昨年度と同じように率直な御意見を引き続きお願いできればと思っています。

なお、こちらの確認・意見シートのほうで電子書籍のコンテンツ数ですとかタイトル数というところは、会長とも相談の上、記載をさせていただきました。

次に、区立図書館のアンケート調査結果の冊子を配付させていただいております。皆様、青い冊子をお配りさせていただいております。こちらのアンケート調査については、2ページにあるように、各館に来館した方に調査票を配付し、記入していただくとともに、二次元コードからウェブ回答のほうも行っております。21ページ以降に、各館ごとの満足度などの指標も載っております。また、68ページにはクロス集計した、どういう年代の方

が今回調査に協力いただいているか、そういったところも記載をさせていただいております。今年度各館の評価を行う上でぜひ参考にいただければと思います。

そして、最後に、子どもの読書に関する実態調査報告書、こちらは令和7年3月分です。こちらを印刷して配付しております。こちらも2ページにあるように、子どもと保護者の読書の状況や読書活動について5年ごとに調査を実施しております。8ページを御覧いただきますと、あなたは1か月の間に何冊くらい本を読みますかという問いに、読まないと回答したいいわゆる不読率の割合、こちらが5年前の令和元年に比べ、特に小学校6年生、こちらが12.3ポイント増と大変顕著になっております。こういった傾向もございます。今年度、各館の評価を行っていただくに当たりましては、ぜひこういったところも参考にさせていただいて、御意見をいただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

以上でございます。

○会長 ただいまそれぞれのアンケートにつきまして、あるいは子どもの読書に関する実態調査の報告書について簡単な説明をいただきました。子どもの読書に関しては、今もありましたように、残念ながら不読率が徐々に高まっているということで、今日の各館の評価の中でも子どもの読書のところを取り上げている図書館もございます。あるいはそのあたりのテーマに関心をお持ちの委員の方も多し、学校の校長先生も今回また入れ替わって委員になっていらっしゃいます。関心の高いところだと思いますが、今の時点でこの資料について説明や御意見などがありましたら、お出しいただきたいと思います。いかがでしょうか。

○委員 今の時点でとおっしゃられたので、これは後で聞こうと思ったんですけども、アンケートの回収状況が26%というふうに出ていらっしゃって、これは5年ごとにされていると思うんですけども、前回、前々回35%だったのが、今回26%になっていて、どうなのかなというところなんです。不作為で送ったり、ウェブで何かというふうに書いてあったんですけども、もう少し回収率をよくすることはできないのかなとちょっと思いました。その答えた母数というか、私は見方が分からなかったんですけども、nの母数のところがあまりにも、世田谷区内の全体の子どもの数というか、中学生、小学生、区立でも、数としてどうなのかなというのがちょっとありまして、もちろん集計の後の自由意見

のところ、それぞれ各学年とかで書いてあって、すごくなるほどなと私も思うところがあったんですけども、この数として、それだけの意見が出るということは、多分まだもう少しと潜在的にいろんな意見をお持ちの保護者がいるのではなかろうかなというところもあり、500という数がいいかどうか私は分からないんですけども、もう少し数字として取りに行く方向で、次回5年後になってしまうかとは思いますが、上げていただけるといいかなと、この集計を読んで思いました。ウェブになると答えが少なくなるというのはよく聞いた話ではあるんですけども、何か一工夫をいただきたいなと思いました。

○会長 今後に向けてこの回収率を高める方策を何かお考えのほうがいいとは思いますが、いかがですか。

○事務局 しっかりと検討していきたいと思えます。

○会長 これは、教室で答えてもらっているわけではなくて、アンケート用紙を渡して、家で答えてもらって、それを回収というやり方ですか。

○事務局 こちらのほうなんですけれども、住民記録台帳から無作為に抽出を行いまして、その抽出された家庭に郵送でお配りしているものになります。

○会長 分かりました。そのやり方だとこういう回収率になってしまうということのようです。やり方はほかにもいろいろ考えられますので、ぜひ回収率を上げるような御努力はしていただきたいと思えます。

それでは、早速、本日のメインの議題のほうに移ります。次第の2にございますように、第3次世田谷区立図書館ビジョンに基づく各館の取組みの評価・検証に移ります。委員の皆さんには、これらを基に率直な意見、あるいは質問、場合によってはこうしたかどうかというような提案もいただければと思えます。短い時間にはなりますが、よろしくお願ひいたします。

今日、5館を取り上げますので、時間配分といたしましては、おおむね5分程度で各館から御説明があり、その後15分程度の質疑応答を行います。ここあたりの時間配分については、御理解と御協力をいただきたいと思えます。

初めに、事務局から取組シートの構成、作りについて簡単に説明していただいた上で、各館からの説明と私どもからの質疑に入ってまいります。

まずは、事務局から説明をお願いいたします。

○事務局 では、事務局から説明いたします。資料1を御覧ください。世田谷図書館のところを例示に説明させていただきます。

1 ページを御覧いただきますと世田谷図書館とございまして、上のところに運営体制ということで一部業務委託と書いてございます。こちらはどのような運営の体制かというところを記載しております。

取組項目に、一番上のところは、図書館ビジョンの基本方針の1から4の中から2つを選択していただいているものでございます。基本方針2、基本方針3ということでその取組項目を選んでいただきました。

それに対して主な課題と目標ということで、それぞれ記載をしていただき、その下のところを取組みの実施状況ということで、こちらも(1)、(2)ということでそれぞれの基本方針ごとの取組に関して、(1)のほうであれば、取組に関する指標として、おはなし会ですとか貸出状況、取組み内容について具体的に記載しているといった形になっております。

2 ページを御覧いただきますと、右下のほうに自己評価という形で、こちらもそれぞれ基本方針の取組項目ごとに記載をしていただいております。

本日皆様からいただいた意見・提案は、その下のところにしっかり記載をさせていただきますと思っています。

3 ページをおめくりください。世田谷図書館の概要ということで、こちらは開設年から閲覧席や資料数などを記載しているんですが、こちらの閲覧席や資料数は、今年度、最新の統計を現在調整中でして、おおむね数字は正しい数字なんですけれども、一応調整中であるというところだけ御承知おきください。

その下にレイアウト図を載せておりまして、4 ページを御覧いただきますと、こちらも数字は調整中ですが、所蔵数、貸出数、登録者数、来館者数、予約数、それからコピー枚数、そして職員数のフルタイム換算ということで、各館ごとの記載を3月31日現在ということでさせていただきます。

そして、今日の資料で申し上げますと、一番後ろ、21、22ページ、こちらに黄色く塗られているところの館が今回の、本日の該当館でございます。特色等の一覧を地域特性や強

みなど、そういったところの特徴を載せさせていただいております。こちらも参考に、ぜひ忌憚のない御意見をいただければと思います。

それでは、早速、説明のほうに入りたいと思っております。各館ごとということで、まず、世田谷図書館からお願いいたします。

○世田谷図書館長 世田谷図書館長です。よろしくお願いします。

それでは、資料の1ページを御覧いただきたいと思います。当館、世田谷図書館は、区役所の本庁舎や国士舘大学の近くにございまして、世田谷線の松陰神社前駅を最寄りとする今の場所へ移転して9年目を迎えます。当初より一部業務委託という運営形式であり、窓口業務や書架整理、電話受付など、おおむね御利用者と直接接する業務についてのほとんどを事業者に委託にしております。現在20名、残る区職員5名は、資料の選書や発注や除籍、それから施設の管理など、庶務関係を担っております。

早速ですが、この取組項目以降について御説明いたします。

図書館ビジョンの基本方針から2つ選びまして、子どもの読書支援と地域の人々との連携の関係です。

これに基づく主な課題と目標（どのような課題をどのように取り組むか）というところですが、1つ目の子どもの読書支援、これについては、課題としては、まずはニーズの把握、これがどうもつかみ切れていないんじゃないかというところ、それから2つ目は、個人や団体同士の結びつき、この辺が単発的で終わっていないかといったところ、目標としては、より様々な機会の参加の促進、それから具体的なセールスを含めたコネクションづくりといったところで目標を掲げております。

(2)の地域の人々との連携云々については、これはほぼ(1)の子どもの読書支援と通ずるところでございますが、PRを重ねて当館の認知度、信頼度を高めるということ、目標としては、具体的に協力できるような、協働できるような、そういった企画をたくさんやっといこうといった点がございます。

そこで、取組みの実施状況、成果でございます。様々な指標がございまして、(1)の子どもの読書支援に関するものについては、おはなし会の開催回数自体とその参加者の数については増を見えています。また、もう一方で、貸出者の数でまいりますと、残念ながら少し低調の傾向にあるといったところでございます。

取組み内容についてですが、列記しています。細々ございますけれども、書架について

は、まず読み継がれている読み物を大切にしようという取組み、それから、館内の環境としては、なるべく面出しを積極的に行って魅力あるレイアウト、館内状況にしていっていったこと。

それから、さらに、子どもたち、あるいは御家族の方々が集いやすい、過ごしやすい居場所という観点で、身近に手に取れるような展示、あるいはテーブルを増やしまして、親子あるいは友達同士で、静かな図書館がモットーでございますけれども、支障のない限りで様々な会話や交流ができるような環境を仕立てております。

利用者との対話、これも大事にしている点ですが、当館では、はじめての絵本という事業を設けまして、すぐ隣に乳幼児健診の会場がございますので、母子保健法に基づく法定のものでございますが、半年、1か月半、3歳と必ずお見えになる機会を捉えて、個別に絵本紹介や、乳幼児の育児に役立つような事柄について、マン・ツー・マンの個別に御案内をしている事業をやっております。そこから出る御意見を基にして、実は子どもの部屋についても、例えば離乳食の本がもっと欲しいんだという御意見など様々な有益な御指摘もいただきますので、それらを反映させる形で児童コーナーの図書展示なども変えています。

それから、YAについては職場体験を中学校様から受け入れていますが、これもただ体験というだけではなくて、大いにYAの、当事者の意見を聞くことを大事にしています。みっちりいろいろな意見交換をした上で、それらを踏まえて、YAのコーナーを充実させていく方向で、今準備中でございます。

(4) 子ども施設・学校との関係づくりですが、御覧のとおりで細々ございます。各学校、保育園と関わりを持ち、積極的に職場体験などの受入れも、恐らく全館の中でもかなり多いほうかと思います。

2 ページに参りまして、(2)の地域の人々との連携でございますが、指標としましては、これはお祭りの数ということで、少し大ざっぱで申し訳ありませんが、大きな町のお祭りに対して積極的に仲間に入れさせていただきました。これを取組み内容の(1)としていまして、そのほかにも区誌研究会という、もうこれは戦前からある、老舗の区民から成る郷土史研究会ですけれども、そことコラボしまして、(2)幕末、維新をテーマにしたイベントをしています。

(3)としては、中川李枝子先生、名誉区民でございますけれども、「ぐりとぐら」は駒沢公園発祥といったことで、それにちなみまして哀悼の意を何らかの形で示せないかという

ことで、有志のボランティアの方々、それから賛同した都立公園とも大いに盛り上がりました。児童館の子どもたちも一生懸命「ぐりとぐら」の読み聞かせをやりました。

(4) 社会福祉協議会との連携、ひきこもりの方々の社会参加のきっかけということで、受入れを何度かしております。実際に就業に結びついた実績もございます。それから、社協職員にも図書館の認知を高めようといったことで講座をしまして、次回、今後は子ども食堂への様々な図書の寄贈といったことも予定しております。

(5) 世田谷区民会館が昨年リニューアルオープンし、旧庁舎の設計者の前川國男先生の顕彰コーナーがロビーにありますので、それにつながる形で当館でも特別コーナーを設けてまして、実際、学生さんの利用があつたりします。

自己評価については御覧のとおりです。館員自身の意識も変わっているかと思ひますし、今後はITを使った広報に努めなければと反省しております。

以上です。

○会長 ありがとうございます。時間も限られておりますので、どうぞ皆さんから御質問、御意見があればお出してください。

○委員 1 ページ目の取組み内容の(4)の①と③、これは具体的にどんなことをされたんですか。

○世田谷図書館長 ありがとうございます。1 ページの(4)の①近隣保育施設へのアプローチ、それから③の地域ボランティア、区内大学、保育園・小学校の三者主体のコラボについて、具体的に申し上げます。

まず、近隣保育施設へのアプローチというのは、近隣の保育園にも声をかけたり、機会を捉えて姿をお見かけしたときにこちらから声をかけています。特に認証保育園、私設の園庭がないなど、比較的苦勞されている園、小規模な保育施設、こういったところに、ぜひお散歩コースにしませんかとお声かけをして今、楽しくお散歩に来ていただいています。併せて、おはなし会などにもよく来ていただいている、若干の子育て支援につながっていると解します。

それから、(4)の③ですけれども、これは具体的には国士舘大学と昭和女子大学のそれぞれの、児童教育、あるいは保育につながる児童福祉の学科のゼミの学生さんたちに声を

かけまして、大学の先生方とも協議しました。図書館の子どもコーナーを開放して提供するので、一から思い切りやってみないかと提案したところ、地元の保育園のお子さんたちと一緒にがらりと図書館内装を変えていただきました。一緒に工作をしたりが定例化して、もう今度5回目を迎えますけれども、同時に学生さんたちがあまりふだん小さいお子さんと接する機会がないそうで、この経験が非常に刺激になって卒業後に小学校の先生や保育の職業に就いたというお知らせも届いています。

昭和女子大学についても小学校の出張おはなし会で、館員と一緒に参加しました。古典文学の学科の学生さんたちが、子どもたちに古典をどう伝えるかといった課題に向けて紙芝居の作り方、話し方練習をボランティアの方々の協力のもとで自ら行い、自作の紙芝居をもって小学校に行きおはなし会をしたところ、大いに自信がついたと。子ども、次世代への古典の伝え方について大いに学べたそうで、大学のブログなどにも出ていました。

以上です。

○委員 ありがとうございます。

○委員 今のお話で、近隣の保育の方たちがお散歩コースに入れているということで、保育園児は結構にぎやかだと思んですけども、それは図書館の中に入ってきて、ほかの方からうるさいとか、嫌がられたりする、そういうのはないんですか。

○世田谷図書館長 大変申し上げたかった点を御指摘いただき、ありがとうございます。私も最初、実は館の中でも、これはあるんじゃないかといったことで論議があったんですけども、結果としては折り合いがついています。なぜかと言いますと、お散歩コースでお散歩に来られる時間帯というのは大体午前中で、比較的図書館がすいている時間帯なんです。それも見込んでお声かけしたところ、保育園側も節度をもって、お子さんたちもきちんと楽しく、にぎやかというか、楽しそうですけれども、そうぎゃあぎゃあ騒がずに来ています。またおはなしのへやというのは当館の場合は一定の隔離性というか、ロケーションがありますので、その中で、結果として折り合いがついていて、手前みそですが、ほぼ笑ましい光景は一体としてはできていると思います。

○委員 分かりました。ありがとうございます。

○委員 幾つか図書館を回って、まだ全部は回り切れていないんですけども、世田谷図書館にしかなかったものが、籠というか、袋というか、透明の多分貸出袋みたいなものを御用意していたような気がするんです。本を探すときに、買物籠みたいなところもあるんですけども、やり方はすごく親切だなと私は思って、工夫をされているんだなと思ったので、その利点みたいな、あれを持ってカウンターに来られる方、多分お母様方とかはあれがあったらすごいありがたいなと思うんですけども、そういういいこととか、工夫されていることがこういうところに、もう当然になっていらっしゃるの、ほかと比べて私はそう思ったということになるんですけども、そういった工夫されていること、借りやすさとか、気を遣われていることも入れていただけると、またいいのかなとちょっと思いました。

あとワンフロアで確かにすごく奥行きが深いところだったので、最初、もう役所、役所している、入り口から手前はどうしても新聞コーナーなので、どの図書館も大体そうなんですけれども、新聞コーナーがあると結構お年を召した方がいっぱいあそこに座っていらっしゃるって、一瞬ちょっと行きにくいのかなと思いつつ、負けずにずっと奥へ入っていくと、児童のスペースがすごくきれいにつくられていて、ちょっと驚いたんですけども、あれも学生さんの方も一緒につくられているようなスペースになるんですか。

○世田谷図書館長 今おっしゃっていただいたように、当館は全長50メートルの非常に細長い図書館でして、中に入ると、子どもコーナーや一般の書架まで距離があるんです。全く御指摘のとおりでして、先ほどの学生さんとのコラボとか、装飾とかも、実は以前の絵本のへやは黒幕のような暗いカーテンが、のぞき見防止もあって閉まっていたんです。様々な力が交流し合うことで、今おっしゃっていただいたような雰囲気になっている。それはとても大事なことだと思っています。

○会長 ありがとうございます。私もちょっと図書館にお邪魔しまして、建物の構造が縦長で、利用者の動線としてはかなり重なる部分があり、すれ違いが大変だなという印象があります。

今回は、第3次図書館ビジョンのうちの基本方針2つを取り上げていただいたわけですよ。これを見る限り、基本方針2の子どもの健やかな成長を支える図書館をうたってい

ながら、利用は減っていますよね。子どもさんの利用が減っている。これはやっぱりどう考えたらいいか。これを目標に掲げている以上、少し上に伸びるか、横ばいならばともかく、着実に減っている。特に4ページで、図書の貸出冊数の児童資料を見ると、もうずっと減っていますよね。ここらあたりは、この取組と実際の数字、この結果をどう考えていますか。

○世田谷図書館長 ありがとうございます。この数字は、事務局で作成していただいたものなんですけれども、まさしく10日ほど前でしょうか、成案をいただいたときに、当館でも激震が走りまして、実は今日も午前中、責任者がみんな集まって、何でなんだろうといったことで、大いに議論したところでございます。この理由としては、子ども読書に関する課題に対する取組全体が甘かったことがまずあると思います。特に今御指摘いただいた貸出しの資料の数の激減について、恐らく七、八%ぐらいの減ですが、これは全館的な傾向に比べても確かに多いです。統計もいろいろクロスして見てみたんですけれども、まず書架に魅力がないのか、所蔵資料に魅力がないのかといったことがあるのだろうかといったこと、ただ、資料の数自体はそうは減っていないです。

2つ目は、これはよそのせいにははいけないんですけれども、近隣の梅丘図書館とかが今閉鎖されています。その関係で、いわゆるいろんな予約が各館からお互いにあって、資料を持ち合うわけですが、そのときに、梅丘図書館なりの大きな図書館が閉じているときに、1冊の本をめぐって、世田谷図書館も梅丘図書館も持っているという場合、従来だったら梅丘図書館の本が行くといったものが、世田谷図書館のほうから寄こすことになる予約経路の変化も起こります。そこそこのボリュームなんですけれども。それゆえに、当館にある本が外に出ていってしまって、ここに来た方の貸出しの数が減っているといった面も、全くは否定できないだろうとも考えられます。しかしやはり謙虚に、虚心坦懐にこの数を捉えれば、まずは所蔵資料の魅力、見せ方とか、魅力ある図書館の環境といった点でまだ足りないんじゃないかといったことが考えられます。ただ、この数字は次は絶対に繰り返してはいけないといったことも、館の打合せでは、話し合われた次第です。

○会長 ありがとうございます。この問題は、実は次の砧図書館や玉川台の図書館でも同じような傾向にあります。だから、世田谷図書館の場合に、基本方針2に掲げて、これだけ御尽力されたのだから、数字が減ったのは、これまでこの程度で済んだのは、逆に言え

ば頑張ったからこの程度で済んだんだと。基本方針2に力を入れなかったら、もっと子ども
もの貸出しは減っていた、子どもの利用は減っていたかもしれないんです。だから、今後
引き続きこの数字を見守ると同時に、継続して子どもの読書を支援する取組には努めてい
ただきたいと思います。

○世田谷図書館長 ありがとうございます。この数字を課題にしたいと思っています。

○会長 若干長くなっちゃうんだけど、この数字、1ページの真ん中の表の中で、貸
出者数の比率というふうに指標が書いてあります。貸出者数でこれはよろしいのでしょ
うか。

○世田谷図書館長 そうです。

○会長 ということは、これは実はすごく分かりにくい数字と言えます。令和5年度の数
字を100にしたときに、令和6年度の子どもの貸出者数の人数が95.2%で4.8%減ったとい
うことを意味しているんですよね。

○世田谷図書館長 そうです。

○会長 この場合、貸出者数の定義は何なのかというのは、実は延べの貸出者数ですか。

○世田谷図書館長 延べです。

○会長 だから少し分かりにくい数字ですね。つまり何冊借りたかではなくて、1冊で
も10冊でもいいから、1回子どもが借りるとそれを1人と数えるんですよね。

○世田谷図書館長 そうです。延べの人数です。

○会長 延べの貸出し人数が減ったということを意味しています。この数字でいいかどう
か。私は、これだったら、図書館の世界でいう「実質貸出密度」、すなわち児童の登録者

1人当たりの利用度がどうだったかのほうが重要と思います。子どもの数全体が減っていますから、児童の貸出冊数が減るのは、ある意味では子どもの人数が減ればしかたない。だけれども、子どもの貸出しの総数は減っても、登録している子ども1人当たりの貸出し数が増えていればいいんじゃないのかという考え方もできるので、ここらあたりの指標の設定の仕方も含めて御検討いただければと思います。

○世田谷図書館長　ありがとうございます。目が開かれました。ちょっと気がつきませんでした。

○委員　データは取れるんですか。

○会長　取れるはず。データは取れるかという御指摘です。

○世田谷図書館長　取ります。

○会長　貸出しするには登録していないといけないので、登録者1人当たりって必ず実は出ているはずです。

時間になりましたので、その次の砧図書館に移らせていただきます。また総括で、最後時間があれば全体の質疑もしたいと思います。砧図書館の館長さん、どうぞお願いいたします。

○砧図書館長　砧図書館長でございます。よろしくお願いいたします。

砧図書館は、成城学園前駅と祖師ヶ谷大蔵駅の間にございまして、最寄りにはウルトラマン商店街で有名な祖師谷商店街などとも隣接しております。また、東宝撮影所にも近くて、黒澤明監督の「生きる」もこの図書館の周辺で撮影されたと聞いております。

初めに、7ページのほうを御覧いただきたいと思います。当館は、地下1階、地上2階建ての図書館の単独館でございます。1階にカウンターと一般書架、2階に子どもフロアや閲覧席等がございます。また、地下には集会室と会議室なども常備しております。それから、社会福祉協議会が運営する喫茶店なども併設している図書館でございます。

では、資料5ページのほうに戻っていただいて、当館の取組内容について御説明させて

いただきたいと思います。当館では、取組項目といたしまして、基本方針2の子どもの健やかな成長を支える図書館、子どもの読書を支援する取り組みの拡充を挙げております。基本方針4のそれぞれの特性等に対応した、多様な人々を包摂する図書館ということで、バリアフリー資料（視覚障害者等用資料等）の充実や読書支援機器の充実を取組項目として挙げさせていただきました。

課題と目標ですが、子どもの読書を支援する取り組みの拡充にいたしましては、区立図書館として行っております読書リーダー講座に参加した子どもたちが、継続して読書リーダー活動に参加しいつまでも図書館と関わりを持てるような子どもたちを増やしていきたいということが1点でございます。また、当館のおはなし会には個人でボランティアとして参加していただいている方がいますので、今後もそういった個人ボランティアの育成ですとか、ボランティア団体との連携などを深めていく必要があると認識しております。

目標といたしましては、読書リーダー講座に参加した子どもたちが継続して参加するよう活動の充実を図るとともに、また、個人ボランティアの皆さんの維持、充実を図るために、ボランティア団体と連携した事業などを検討してまいります。

2番目といたしましては、バリアフリー資料の充実及び読書支援機器の充実でございます。課題としましては、利用者の方が様々な特性等により図書館への要望も多様化しておりますが、これに対応することが求められております。

目標といたしましては、対面朗読などの障害者サービスやバリアフリー資料等の充実を進めるとともに、様々な特性等のある方が利用しやすい図書館づくりを進めてまいりたいと思っております。

6年度の取組みの状況ですが、1点目の子どもの読書を支援する取り組みの拡充につきましては、こちらに記載している内容のとおりでございます。個人ボランティアやボランティア団体と連携して、赤ちゃんや幼児等年齢に応じたおはなし会の実施、あるいは親子で楽しめるイベントの開催、夏休みの宿題に使える科学あそび講座などを実施させていただきました。また、定例的なおはなし会以外の子ども向け事業といたしまして、落語会の中で子どもを対象とした内容のものを実施したり、ボランティア団体の方と連携して、わらべうた講習会やおはなし会などを実施させていただいたところでございます。

2番目のバリアフリーの充実及び読書支援機器の充実でございますが、こちらのほうに実績を記載させていただいております。図書館に来ることや本を読むことに障害のある方に対して、対面朗読や自宅配本などを実施しておりますが、区立図書館の中にあつては、

障害サービスの利用が多いほうの図書館ではないかと考えております。

次に、6年度の取組みに対する自己評価ですが、子どもの読書を支援する取り組みの拡充につきましては、読書リーダー講座に定員を上回る応募がありましたが、やはり小学生から中学生になるに従って、継続した活動への参加者が減る傾向にあります。より多くの読書リーダーが図書館の活動に参加できるように事業を充実させていく必要があると認識しております。また、個人ボランティアの皆さんには、定例的なおはなし会に参加していただき、また定例的なおはなし会以外にも子ども向け事業に御協力いただき、連携することができてまいりましたが、今後もそういった情報交換を行いながら、連携を深めて子ども向け事業の充実を図っていきたいと思っております。

2番目に、バリアフリー資料の充実及び読書支援機器の充実でございますが、現在も拡大鏡（ルーペ）やコミュニケーションボードなどを利用して、窓口等における利用者の皆さんへの対応に努めているところですが、設備的にはまだ不十分な面がございます。例えば当館に拡大読書器等の問合せがあった場合には、中央図書館を御案内しております。今後はそういった読書支援機器である拡大読書器の設置ですとか、施設の構造上、複層階になっておりますので、ちょっと分かりにくい面もあり、そういったものをサポートするためにもデジタルサイネージなどを活用した案内誘導表示の見直し図るとともに、イベント周知の方法などについても改善を図ってまいります。こういった取組を通じて、様々な特性に対応したサービスの提供を進めて参りたいと考えているとことでございます。

以上でございます。

○会長 ありがとうございます。この砧図書館につきましてはいかがでしょうか。

○委員 6ページの(2)の表の下ですけれども、区内の図書館の中で障害者サービスの利用が多いと、これはどうしてなんですかね。

○砧図書館長 障害を持たれている方がたまたま近隣にいらっしゃるということもあると思いますが、設備的に対面朗読室が地下にありまして、利用される方から見ると使いやすい面があるのかなと思います。私は、4月からこちらに異動してきましたのですが実際視覚障害者の方がお越しになっており利用しやすい図書館なのかなと感じております。今後は拡大読書器などもぜひ整備を進めてまいりたいと思っております。

○委員 私も対面朗読のボランティアをやっているんですけども、例えばこの表を見ても、前年度に比べて対面朗読の利用者数が3倍くらいに増えていまして、こういうのは何か工夫されて、何かアピールしたりとか、告知したりとかされていますか。

○砧図書館長 そういったアピールというのは特別には行っておりませんが、その方の特性に応じた説明をするように担当職員も配慮しております。先日の例では、視覚障害者の方で、サピエ図書館のことは知っているようで、デイジーの一覧表はないか紙で印刷されたものを持っていたら出してほしいというようなお話がありました。そのときに、図書館に配布されているiPadを使ってインターネットで見れば、検索もできるし、利用できますよという話をしたところ、それは御存じなかったようです。このようなインターネットを活用したレファレンスや周知も今後は力を入れていく必要があると思っております。

○委員 ありがとうございます。

○会長 まさに取組目標の2番目であるように、基本方針の4に基づいて取り組まれた成果がこれだけ上がったというように理解してよろしいんじゃないですか。

○砧図書館長 ありがとうございます。今後も頑張りたいと思います。

○会長 ぜひ今後も引き続き頑張っていたきたいと思います。

○委員 今日の5館のいただいている数字をいろいろじくっていたら、砧さんは1位と5位がいろいろあって、この5館の中で比べると、非常に特色のある図書館のようにお見受けしました。スリーフロアに分かれていて、私は地下には行ったことがありませんし、特殊な状況がいろいろあるのかもしれないので、ちょっと教えていただきたいんです。まず、職員数当たりの貸出数が多分一番で、あとは所蔵数と貸出数の割合、回転率みたいな、そこも一番でいらっちゃって、割と突出した一番で、すばらしいと思うんです。

片やで、これは多分、各施設の面積がここに出ていらして、砧さんは割と大きく、地下も入っているということが理由だと思うんですけども、面積当たりの資料数とか、面積

当たりの貸出数でいうと一番少ないみたいな形になっていて、割と面積は大きいんですけども、1人当たりの職員の方とか、1つ当たりの資料が非常に働いていらっしゃるとお見受けしました。実際私がお邪魔したときも、一番元気よく挨拶していただいたのがこの図書館で、単純にタイミングの話だったと思うんですが、1人当たりの職員が一番貸し出ししている図書館が、入ってくる人間にも一番敏感に反応していただいたということで、ちょっと驚いて、その辺のもし工夫がありましたら、今までの質問とかぶるかもしれませんが、お答えいただければと思います。

○砧図書館長 ありがとうございます。わたくしごとですが、館長として4月にこちらの図書館に異動まいりました。砧図書館には嘱託員が23名と常勤職員が10名おりますが、まずヒアリングを行いました。ヒアリングを通じて、ひとりひとりの職員の意欲を感じました。窓口立つ嘱託員や職員が自主的に動いている職場だと思います。一方で、御指摘いただいたとおり、職員の業務への負担が大きいということも感じております。ここで具体的には申し上げることはできませんが職場環境の中で改善できるところは配慮してまいりたいと思っております。

また、地下1階から2階までの複層的な建物になりますので、御案内の仕方が難しい面もございます。そういった面で、今年度の自己評価の中で申し上げましたデジタルサイネージを有効に活用してまいりたいと思っております。

以上です。

○会長 多分施設の、今日の5館の中では、砧図書館だけが独立施設だということが考えられます。あと玉川台にしても、代田にしても、烏山も、みんな区民センターの上位階なんですよ。多分貸出しが一番多くなるのは、単独施設、図書館としての独立施設なので、条件的には多分砧が一番いいでしょうね。世田谷も1階が図書館ですけども、上のほうにはほかの施設が入っている。施設のそんなに貸出しが伸びないのは、一方で、結構保存書庫がスペースを取っているということもあるんだろうと思います。その辺、それぞれの施設の特徴というか、違いがあるのが数字の上でも反映されているように私は受け止めました。

○委員 砧図書館に行かせていただいたんですけども、1階の中高生向け、YA向けの

本ですか、あそこがすごく充実していて、セクションが物すごいよかったと思いました。ほかの図書館にはちょっとない形で、多分一生懸命選ばれて、その世代に合う絵本とかまでもちゃんと並べてあって、中学生の男子がいるので、気になる本がいっぱいあったので、何冊かそこで借りて、子どもの机の上に並べさせていただいたんですけれども、でも、中学生自体がやっぱりどうしても図書館になかなか足を運ばないというのがあると思うんですけれども、やはりああいう棚を作られて、中高生とか来る人数とかは増えているという感じなんですか。

○砧図書館長 具体的な数字は把握しておりませんが、やはりYAコーナーをつくったこともあり、やはり中学生も多いんですが、勉強で来られる方が多いようです。とはいっても、なかなか閲覧席が増やせる状況ではなく、地下の会議室を土日に臨時閲覧席として開放していますが、中高生のそういった学習環境のためには、ちょっとまだまだ不十分な面があり、中高生の読書や学習環境への要求に応えられていないかなと感じております。

○委員 閲覧室、私も地下に行ったんですけれども、皆さんやっぱりお勉強が大変みたいで、もうがりがり勉強していて、ちょっと本を読まれている方はやはり少ないように見受けられました。中学生の息子がいて、結構今、ひきこもりの子どもとかがいて、悩んでいらっしゃるお母さんとか、御本人とかがいらっしゃるの、いい本がたくさんあるので、図書館に来て、サードプレイスじゃないですけども、ちょっと居場所があるようなスペースがつけるといいんじゃないのかなと思いました。

○砧図書館長 ありがとうございます。では、持ち帰って、職員に、いただいた今のお言葉を報告させていただいて、よりよい図書館にしていきたいと思います。

○委員 世田谷おはなしネットワークは、区内のボランティア団体の横のつながりで、その中の運営の一員ということで参加しておりますが、自分の所属のボランティアグループは、わらべうたを中心にしたもので、長年、砧図書館様で活動をさせていただいております。ですので、5ページの赤ちゃん、幼児などの年齢に応じたおはなし会の実施、ここに関わらせていただいております。

ほかの図書館でも活動させていただいておりますが、やはりこの地下のスペースが非常

に広くて、土足のフロアですが、活動の際には職員の方にござを敷いていただいて、また地下までエレベーターを使ってベビーカーが入れるということもありまして、非常に多くの乳幼児を連れてこられた保護者の方と乳幼児の参加があります。とても恵まれた環境だと思って感謝しています。

それで、こちらの図書館だけではなく、今日、そのグループのメンバーに活動がありましたので、図書館と協力して活動を運営していく、何が一番大事なことから、今何を図書館に対して申し上げたいかという話をしましたときに、やはり図書館の職員の方の異動がありまして、毎年同じメンバーではない場合もあります。けれども、砧図書館の職員の方、必ず年度初めと終わりには引き継ぎのミーティングを設けてくださっていますし、今はメールでのやり取り、プログラムの実施のときには必ずこちらも内容を御連絡していますし、そのことによってプログラムの内容の中で職員の方が読まれる本も決めるということで、非常に連携が取りやすくなっています。この対話といいますか、引き継ぎがなくなってしまうと、毎年の活動が継続されなかったり、課題として持っていることが、去年は解決できたのに、今年はちょっと難しくなってしまったとか、職員の方の持ち上がりがあっても、それが生かされない場合がありますので、それができているということを感じて申し上げますし、それがとても大事だと、ほかのボランティアグループもたくさん図書館に関わらせていただいていますけれども、その対話をさせていただいているところは運営に対してプログラムをすごく潤滑にできていると思いますので、今後ともよろしく願いいたします。

この中のボランティア団体と個人のボランティアの連携というところがよく分からず、私たちの活動の中でこういったお話をいただく機会がなかったもので、どういうことなのかというのを少し御説明いただけたらいいかなと思います。

○委員 5 ページの表の中の⑤の講座参加者と活動参加者がどう違うのかというのが知りたくて、自己評価の中に「継続した活動への参加者は減る傾向となった」ということは、この最後の68.4%でそれを読み解かなきゃいけないのかなと思うんですけれども、ちょっとそこが分からないので、教えていただけたらうれしいです。

○会長 併せてお答えをお願いします。

○砧図書館長 この参加者というのは読書リーダー講座を行っておりまして、その講座に参加していただいた方が毎年3名か、4名いらっしゃいますが、その中で継続して図書館で行っているリーダー講座に参加していただくという意思を示していただいた方が5年度は19名で、6年度は13名だったということです。ですから、この数字をなるべく、もっと多く継続してできるように引き上げていきたいというのが基本的な希望になります。

○委員 新たに4人読書リーダーに参加したけれども、本来であれば、前年度の19人プラス4人ぐらいでいけばいいなということですね。

○砧図書館長 そうです。

連携する機会といたしまして、5年度までは砧図書館で利用者懇談会等を行っていましたが、いろいろな経緯があって、5年度で一旦中止になっておりますので、そういった経験生かしながら、個人ボランティアの方と、ボランティア団体の方、そのほか砧図書館を利用されている団体の方情報交換しながら交流する機会ができればなどは考えております。

○会長 ありがとうございます。砧図書館にとっては、読書リーダーとか、子ども読書の拡充というのが1つの目玉というか、世田谷区全体にとっても、砧図書館が1つの拠点になっていくんだろうと思います。引き続き活動のほうをよろしくお願いいたします。

それでは、取り上げる図書館を次の玉川台に移らせていただきます。館長、説明をお願いいたします。

○玉川台図書館長 皆さん、こんばんは。玉川台図書館長です。よろしくお願いいたします。

玉川台のことは、ちょっと先に9ページを御覧いただいて、うちは体制は直営でございまして、先ほどからお話がありました複合施設で、児童館と、あと区民センターといったところと、1階、2階、3階という形の3階にございます。区内では6番目にできた図書館でございまして、昭和48年6月に開館して、今年で52年目になります。その52年という月日で大分建物が傷んでいるので、この9月からちょっと中の改修ということもありまして、少しの間、カウンター営業といったちょっと地味な活動になります。

私自身が用賀の生まれ、育ちで、実はこの玉川台図書館は私が小学校6年のときにできました。私も何度か利用したことがありまして、そのときはまだ階段しかなく、あの頃は元気だったので、ばたばたと上がっていきましたが、その中で、先ほどから話題になっている図書館の広さ、狭さの話なんです、玉川台のほうは地域館の中でも4番目という狭さです。私、前に深沢にいたんですけれども、ここが一番狭いんですけれども、700平米ないというところで、その中でかなりの数の蔵書を持っておりますし、閲覧席のほうも20席ほど用意させていただいておりますが、昨日までちょっと特別整理を行っております、いろんなことの準備ができていなくて……。

一応、ビジョンの基本方針というところで、なぜこうなったかというお話からさせていただきたいんですけれども、複合施設ということで、児童館が子どものことで一緒に取り組めるかなということと、あとセンターがありますので、そこで地域のまちづくりとか、あと区民活動とかということに関しては一緒にやっていけるということもありますし、前回お話ししたと思いますが、用賀という土地柄、世田谷美術館と協定を結んでおりまして、その図録をお預かりしたりとか、世田谷美術館コーナーということで、そういったものの積み重ねをいろいろ資料として出させていただいております。

狭いということもあるんですが、児童館が2階にあるということで、子どもが来そうで来ないという微妙な環境にございまして、おはなし会も、数がこちらに表が出ていますが、回数のほうは何とか大分実施させていただいているんですけれども、人数的に、数的にはちょっと増えている感じというのはあるんですけれども、これも呼び込みの成果といえましょうか、子どもが少ないなと思うと、児童館に声をかけておはなし会をやるから来てという形の呼び込みができるという利点がございまして、そういった形の努力が実を結んでいるかなという感じなんです。

明らかに感じることで、やはり子どもの来館は減ってきています。資料数のこともそうなんですが、来館者数がちょっと伸び悩んでいるなというのが、私たち現場の人間の実感なんですけれども、アンケートの用紙を見ても、やはり子どもさんたちの読書離れというか、そういったものがすごく感じられるので、何ができるかと考えたときに、やっぱり地道におはなし会をやっていくとか、そういったことがいいんじゃないかと、必要なことなんじゃないかということで、おはなし会のスタンプカードなどを作って、地道に来てねという勧誘をしてみるとか、そういったことをしております。

あと児童館とか、センターとかのイベントの中で、おはなし会をさせていただいたりと

か、あとリユースの本を配ったりとか、そういったことで地域の方々との連携もしていますし、センターや児童館が行う地域のコミュニティとの話合いとかにも必ず参加させていただいて、そういったことで周りとの連携を取るように頑張っております。

あと美術館のほうなんですけど、ずっと古い時代から、美術講演会という形でやらせていただいているんですが、こちらのほうも、コロナでちょっと中断したこともありますけれども、また少しずつ盛り返せるようにということで、少し数が増えているということに頑張らないといけないなということを考えております。地域活動ということでは、用賀は、正直あまりぱっとしたものがないというか、そういったところなので、それでも地元の中でやっていらっしゃる方たちと一緒に連携をしたいということで、今まで頑張っております。

時間もないことですので、この辺で終わらせていただきます。

○会長 ありがとうございます。玉川台の図書館は、施設的にはかなり制約を受けるような施設なので、その中でいろいろと工夫をされているということは私もよく分かりました。玉川台図書館につきましていかがでしょうか。

○委員 私のメインで使っているのが深沢図書館で、私は何度か顔を拝顔したことがございます。

砧さんとか世田谷さんがグループAとすると、深沢とか玉川台さんは、ちょっと失礼な言い方かもしれない、グループBになるのかもしれませんが。居心地とか、設備とかは負けるかもしれませんが、近くの住民にとっては非常に大事な施設ですので、ぜひとも頑張りたいと思います。

この施設でちょっと気になったところは、閲覧コーナーがカウンターからちょっと離れているんですね。あれは映像で確認しているんですか。何か変なことが起こっているかどうかというのは、テレビで確認されたりしているのかどうかというのと、その連絡通路のところに、パンフレットを立てた本棚みたいなのが置いてあるんですけれども、消防法であそこに置いていいのかとか、ちょっと不安になったことがあるので、御確認いただければと思います。

以上です。

○玉川台図書館長 いろんな御指摘ありがとうございます。たしかに私も顔を拝見した覚えがございます。

閲覧席なんですけれども、図を見ていただくと分かるんですが、見事なほど、本当に離れているんですよ。受付から全く見えません。ただ、入り口がカウンターの横にしかないので、エレベーターも含め、出入りが分かるので、こう言うてはなんなんですが、怪しいなと思う人が来ると、必ず見回りには行っております。防犯カメラのほうはつけておりません。防犯カメラがついているのは、センターの入り口だけなんです。受付からはなかなかあれですけれども、事務室のほうに職員がおりますので、必ず見回りに行くようにということで、日に何度も行っておりますし、雑誌の書架がこちらにございますので、雑誌を戻しに行くときに必ず確認をしてくるようということも伝えてありますし、そういったところで今のところ大きな事故のようなことはないので、そちらのほうは大丈夫かと思えます。

あと、いろんなパンフレットを並べているということなんですが、確かにそのとおりでございますが、本当にほかに置く場所がないんです。よくポスターを頼まれて、貼ってくださいと言われるんですが、大変申し訳ございません、場所がございませんということで、チラシのほうをお預かりすることが多くなっております。そのチラシのほうも、実は1階のセンターが同じようなものを持っているので、「区のおしらせ」とかそういったものは、選挙の公報も含めまして、ほとんどうちのものに手をつける方はいらっしゃらないです。だけれども、ほかのいろんなチラシが置いてあって、そういったものを図書館に求めてくる方もいらっしゃるので、そういった方のために並べておりますし、そういう方法でも一度も引っかかっておりませんので、大丈夫と思います。

○委員 先日、玉川台図書館のほうに伺って、児童コーナーのところを拝見したんですけれども、赤ちゃんおはなし会を実施されているとここにありますが、その際は、何かあのコーナーに赤ちゃんが過ごせるような環境をつくられているのか、それともあのままでなさっているのか、どんなふうを実施していらっしゃるんでしょうか。

○玉川台図書館長 実はおはなし会というのが、ずっと2階の児童館をお借りして行っていました。私が行って2年目に児童室の環境を変えて、幼児のおはなし会は3階で今行っております。赤ちゃんおはなし会のほうはさすがにちょっとあそこではできないので、2階の児

童館を今でもお借りしています。

○委員 分かりました。ありがとうございます。

○委員 ちょっと週末に玉川台図書館に伺わせていただきました。おっしゃるように、もう建物が古いので、やっぱりどうしても右の閲覧席のほうは居心地がちょっと悪くて、雰囲気はちょっと悪くて、使いにくいなという雰囲気は感じました。

あとは、子どもスペースもやはり靴を脱いで座れるところがなくて、ちょっとカウンターの人に伺ったら、昔は畳だったんですけれども、今はそういうスペースはなくなりましたということだったので、結構赤ちゃんを抱っこして寝ちゃって、立ったままのお母さんとかはやっぱりきついので、ちょっとそういう靴が脱げるようなところがあると、スペース的に難しいのかもしれないんですけれども、いいのかなと思いました。

あとは読書リーダーが進めているポップみたいなのがあって、すごくいいなと思って、この本を読みたいなと思ったら、ちょうど文庫本「さ」のところにありますと書いてあったので、それを探しに行ったら、なくて、係の人に聞いたら、もともとこの図書館にはない本ですと言われちゃったので、書いてあることで、やっぱりありますと書いてあるのに、ないんだと思って、ちょっとびっくりしたんです。普通のお店だったらというか、本屋さんとかだったら、例えばその本を置いてポップを並べるとか、少なくともその本棚に行けばあると書いてあるんだったら、あったらよかったなというのはちょっと感じたので、いろいろとお仕事もあって大変だと思うんですけれども……。

あとは、どこの図書館も結構自動貸出機を使われている人が少ないと思うので、貸出しの手間を自動化して、ほかに余力ができるようにするのはいかがかなとちょっと個人的に……。今回全部の図書館で自動貸出機を使ってみたんですけれども、やはり私も、ふだん使っている人がいなかったで、今までカウンターでばっかりやっていたんですけれども、結構コツをつかむまでに難しいと思いました。例えば世田谷図書館はカードを読み込むところの案内が一番分かりづらくて、その案内をこうやってやるんだよと書いてあるとおりにやって、ちょっとうまくいかなかったんですよ。各館によって意外といろんな細かいところがやっぱりいろいろ違って、ＩＣカードが入っているのも知らなかったで、赤い枠に重ならないように入れてくれというので、私はバーコードが重なっちゃいけないかなと思って、バーコードを一生懸命ばらけてやってもできなかったりして、ＩＣカー

ド、白いのは私はあまり気づかなかったんです。その置き方とかも結構やっぱりコツが要るので、1回世田谷で借りたら、やっぱりビーとか鳴ってしまって、私の使い方が読み込めていなかったのも、でも、どうにか使いこなそうと思って、各館で試してみたんですけども、やっぱり慣れないと、例えば借りた本を左に置いておくと、こっちもエラーで入っちゃって読み込めないとか、ここの枠には借りたやつを入れているんだけど、借りたやつを……。

○会長 すみません、玉川台図書館に対する質問をお願いしますね。

○委員 すみません。という感じで、自動貸出機も皆さんにもっと使いやすくしてください。なので、玉川台図書館は、以上です。

○会長 自動貸出機の問題は区全体の問題ですね。玉川台だけじゃないです。私は、自動貸出機を導入したコストの割にどこもあまり使われていないと見ております。

玉川台についての説明があればどうぞ。

○玉川台図書館長 昨日まで特別整理ということで、その間にリプレイスがございまして、新しいものに替わっております。少しは分かりやすくなっているかなと思いますし、うちの場合は受付のすぐ前ですので、御利用でお困りの方はすぐ職員が飛んでいって、どくなさいましたといって声をかけて、利用していただいております。

○委員 丁寧に助けていただきました。貸出禁止のやつを1冊借りていて、それでエラーが出ていて、分からなかったのも、丁寧にすぐに対応していただけて助かりました。ありがとうございます。

○玉川台図書館長 ありがとうございます。

○会長 いずれ、これ全部が終わったところで、今日じゃなくて、世田谷区全体の問題として、あの自動貸出機をもっと使われるようにするにはということは、私は大きなテーマだと思います。あれだけコストをかけている割には、使っている方はどこの図書館も少な

いです。私が見る限り幾つかやっぱり問題があるように感じます。今日はそれをメインの話題には取り上げませんが。

玉川台図書館は、やっぱり地域との連携で取組項目の2つ目、まちづくりや区民活動に関する資料の収集、ただ、いかんせん施設が狭い、古い、3階ですから、とにかく行くのが大変。

それから、世田谷美術館に関する資料とか、美術館関係はあそこにありましたね。一方で、玉川台図書館がこういう展示をやっているとか、こういう取組をやっているということが世田谷美術館のほうで分かるのでしょうか。

○玉川台図書館長 図録などは、あちらの係の方が直接お持ちいただけるので、うちがどういうことをやっているかは御存じだとは思いますが、あちらのものをお預かりするだけで、玉川台図書館の宣伝をさせていただいているとは思えません。

○会長 ですね。やっぱりそれも一方でやっていただかないと、世田谷美術館に来た方が、そうか、これについての美術全集とかは玉川台の図書館に行けば見られるんだということに気がついたほうが、相互の利用を伸ばすことができるように感じました。せっかく美術館との連携をやるのでしたら、美術館のほうでも図書館についての資料展示だとか、案内があるとよろしいんじゃないかと感じた次第です。

○玉川台図書館長 ありがとうございます。これから考えます。

○会長 それでは、お待たせしました。続きまして、代田図書館副館長、お願いいたします。

○代田図書館副館長 代田図書館副館長です。本日は館長の代理として御説明をさせていただきます。資料としましては、13ページから16ページまでが代田図書館となっております。

15ページの代田図書館のほうをお開きいただきたいと思います。代田図書館の特徴なんですけれども、井の頭線の新代田駅徒歩1分、環7沿いにございます。複合施設です。区立図書館で一番駅に近い図書館ということです。直営でございます。地下1階、2階、地

上1階、2階が区民センター、図書館は3階、4階にツーフロアで分かれております。5階、6階が児童館となっております。3階が主に大人が御利用いただけるスペースになっていまして、専門書とか雑誌、読み物とかがございます。4階が趣味と生活と子どものフロアということで、子どものコーナーですとか、あと鉄道の本ですとか、そういったものがございます。

職員は、常勤が7名、再任用が1名、嘱託員は25名いらっしゃいます。

では、13ページにお戻りいただいて御説明させていただきたいと思います。代田図書館の取組項目としましては、1点目が調べものに有効なコレクションの構築と提供、2点目が地域・まちづくり・区民活動等に関する資料の収集としております。

取組項目に基づく課題と目標についてなんですけれども、1点目、調べものに有効なコレクションの構築と提供の課題といたしましては、代田図書館の特徴としましては、演劇の町として知られます下北沢のすぐ隣の駅前にあるということ、あと最寄り駅の井の頭線新代田駅から徒歩1分という立地であるということ、代田という地名がダイダラボッチという伝説上の巨人の名前に由来するという説もあることから、このような地域特性にちなみまして、鉄道、演劇、昔話、民話に関する資料を重点的に収集しております。これらは主に4階のほうに配置をしております。一方で、資料の収集には力を入れてきたんですけれども、専用の書架は配置しておりませんで、一般書架の一部などに紛れて目立たないということで、当館の特徴としては印象が薄くなってしまっているのではないかと感じております。

これらを踏まえまして、目標は3つ掲げておりまして、1つ目が、コレクションの充実が基本となるため、継続してこれらの資料の充実を図るということ、2つ目が、収集した地域特性資料の分類を細分化するなど、資料取扱いの改善を図っていくということ、3つ目が、代田図書館の強みとしての地域特性資料について、館内の掲示、書架の飾りなどで利用者にPRを行い利用者の増加を目指すとしております。

2番目の地域・まちづくり・区民活動等に関する資料の収集の課題としましては、当館のある北沢地域は、世田谷区内でも比較的歴史のある地域であるということなんですけれども、近年、下北沢につきましては、演劇、音楽などの文化発信地としても発展しております。しかし、古くからの地域の歴史が新しい文化などに埋もれまして、人々の記憶から忘れられてしまうというようなことも多いことから、北沢地域の地域資料の収集は、時代の昔、今を問わず、重要と言えると考えております。しかしながら、これらは小規模で限

定的に発行される資料も多く、一般販売されていないものもあるなど収集が難しいものがございます。

目標は、一度に多数の資料を収集することは困難なのですが、地域の小中学校や地域の組織などとの関係を密にして、地道に情報収集し、可能な限り多くの有用な資料を収集することにしております。

これら課題、目標に基づく6年度の実施状況ですが、調べものに有効なコレクションの構築と提供では、取組に関する指標を地域特性に関する資料の蔵書数としておりまして、6年度はコレクションの充実を図り、どれも前年度からは増加をしております。現在、仮事務所体制のために蔵書貸出しに制約のある奥沢図書館の蔵書の中で、提供が長期間できない鉄道関係資料を当館で引き受けまして、コレクションの充実を図るとともに、広く提供可能としてきました。

地域・まちづくり・区民活動等に関する資料の収集では、取組に関する指標を下北沢関連資料蔵書数とその他の地域資料数としていますが、どちらも前年度から増えています。また、過去に旧北沢小学校が保有し、下北沢小学校に引き継がれず、廃棄のおそれのある資料を所蔵しています北沢中学校の承諾を得て確認し、その中から地域史として有用と考えられる資料2点を収集し、所蔵資料としてまいりました。なお、下北沢に関する資料につきましても、可能な限り収集をしてまいりました。

6年度の実施の自己評価ですが、調べものに有効なコレクションの構築と提供では2点、1つ目が、奥沢図書館から引き受けた鉄道関係の資料は充実しているのですが、書架内スペースの確保に検討を要したんですけれども、除籍などを最小限にとどめ、収めることができました。2つ目は、コレクションが充実する一方で、目的の資料を探しにくくなっているということがありましたので、これらの分類の細分化の検討の必要性があると考えて、今後の課題としました。

次に、地域・まちづくり・区民活動等に関する資料の収集では、旧北沢小の地域資料の存在は、館長のこれまでの職歴とかもありまして、たまたま知り得たということもあって、収集が可能というものではあったんですけれども、こういった偶然に頼らずに、継続的に有用な地域資料を収集することについて、図書館が受け身ではなくて、地域とのつながりを多方面に持つように努めてまいるとしたところです。

説明が長くなりました。以上となります。

○会長 ありがとうございます。代田図書館につきましていかがでしょうか。

○委員 これまで聞いてきた図書館の中で、それぞれの図書館が頑張っている、いろいろ取り組んでいるということが分かったんですけども、それがなかなか貸出しの増に結びついていないように思いました。ですが、この代田図書館は貸出数が増えているんです。取組の内容を見ましても、貸出しの増に直接結びつくような要素は、私が見たところでは見られないのですが、どのような理由でこの代田図書館さんだけが貸出しが増えているのでしょうか。

○代田図書館副館長 もうちょっと分析させていただきたいと思います。今日はすぐにはお答えできなくて申し訳ないです。

○会長 特に施設的には従来と変わりませんよね。確かに駅に近いのは間違いありませんが。御自身もよく分からないということですが。

○委員 不思議だなと思って。どこの図書館も、例えば児童サービスを充実させるとか、貸出数に結びつくような取組をしているように思います。ですが、ここで見た限りでは、代田図書館さんは特に調べものに有効なコレクションの構築と提供ですとか、貸出数に直接結びつくようには思えないんです。ですので、どんな要素がこの貸出しの増に結びついているのかなと思いました。

以上です。

○会長 事務局から補足があれば、どうぞ。

○事務局 1つ考えられるのは、梅丘図書館が近いんですが、現在、梅丘図書館は改築中で休館しているので、その影響はあるかもしれません。

○会長 それは確かにあり得ますね。梅丘の利用者の一部をこちらで吸収できたということですね。

○委員 私も代田図書館にこの間初めて行きまして、あまりの駅の近さにちょっとびっくりしたんですけれども、1階のフロアが読めるスペースというか、丸い机とかが置いてあって、結構自由に使える、図書館ではなくて、下で作業している方が私の行った時間帯は結構いらっしゃっていて、本を読みながら、いわゆるほかの閲覧室で使っているような使い方をされているスペースがあって、その時間帯なので、何とも言えないんですけれども、結構学生さんが多かった、デイ利用されている方が多かったなというのがあったんです。

今回の取組にはないんですけれども、多分代田図書館は、前回のときは小中学校との連携というところが結構強かった思いがあって、極端な話、今年された施策は、すぐ貸出増だったりなんかにつながるとはちょっと思っていなくて、こういった取組が出てくるのは何年か後だろうと考えたときに、今だけじゃなくて、その前の前年度、前々年度、今までやってきたことの貯金がここでできたのかなと私は思ったところではあります。なので、今回その取組の中にはなかったんですけれども、以前御報告いただいたような近隣の小中学校との連携をもし続けていらっしゃるのであれば、それをより一層充実させていただけたら、このまま続くんではないかなと代田図書館に関してちょっと思いました。ただ、後で総括というか、今回ので、各図書館に、私は近隣の学校との連携のことを聞きたいと思っています。

○会長 それはいずれ、全部が終わったところで、全体に関わるテーマだとは思いますがね。

○委員 この館で聞きたい。それぞれの館で聞きたい。

○会長 この館というのは。

○委員 今日、今回の館で聞きたいなと思います。時間があれば。

○会長 学校との関係。

○委員 そうです。いわゆる最寄りの小中学校とどんなふうに付き合っていたか。例えば

何かイベントがあっても、小学校にそういったチラシが来ていないものもあるんです。逆に、変な話、玉川台は中学校にもちゃんと児童館と一緒にお知らせが来るので、中学校ですら分かるので、そういう付き合い方の問題です。

○会長 それは今日の全体総括だな。

○委員 質問ではなく、とても良い活動だなと思ったところを1つ申し上げたいと思います。まずは、どちらの館の皆様も、本当に大きなお仕事をなさっていることに敬意を表したいと思います。そして今回、特に、代田図書館が目標の中で、地域・まちづくり・区民活動に関する資料の収集というのを挙げていらっしゃって、これを確実にコレクション充実という形でつなげておられるのは、利用者としても非常にありがたいなと思いましたし、地域性の利点を生かしたコレクションの充実というのは、長期的に見て必ず大きな強みになると私は思っておりますので、引き続きこちらを重点課題として引き継いでいっていただきたいと思い、一言申し上げました。

○会長 ありがとうございます。お2人の指摘に対して、まとめて副館長、お願いいたします。

○代田図書館副館長 小中学校の連携のほうは、子どもの調べ学習ですとか、そういった関係でこちらの館でも非常に力を入れて行っておりますので、件数的には結構来ているのではないかなと考えております。

あと地域性につきましても、また、館長が前の仕事で学校改築の関係のお仕事をしていた関係もあって、北沢地域のそういった学校で使われなくなっている資料、そういったものも確認をするようなお話を学校にもさせていただきながら、資料の発掘ですとか、そういったものの収集に今力を入れようということでやっておりますので、引き続き行ってまいりたいと考えております。

○委員 おはなしのへやについて伺いたいんですけども、代田図書館のおはなしのへやは、靴を脱いで上がる下駄箱がありますが、フロア的には一続きで、フロアの材質も特にクッション性のあるものでもなかったと思います。実際におはなし会を実施するときに、

あそこには何か敷かれるのでしょうか。それとも、赤ちゃん向けのおはなし会もあるような表示があったかと記憶しているんですが、どのように実際、使われているのかとちょっと疑問に思いましたので、教えていただけたらと思います。

○代田図書館副館長　ありがとうございます。赤ちゃんや通常のおはなし会の時にジョイントマットを組み合わせず、座布団替わりに利用しております。

○委員　あそこに座る。

○代田図書館副館長　そうです。

○会長　ありがとうございました。代田図書館についていろいろと質疑をさせていただきました。

お待たせしました。最後、烏山の図書館になります。館長、説明をお願いいたします。

○烏山図書館長　烏山図書館長です。よろしくお願いします。

烏山図書館は、立地的にも駅から至近ということで、商店街も大変有名で、活気あふれる地域というところで、区民センターの4階にあるんですけれども、この区民センターの駅前の広場、そしてホールで毎週末には必ず何かしらのイベント等々がありまして、その際には私どもの館にも足をお運びいただけているという意味では、大変恵まれた環境にあると思っております。

ページ数で言いますと、20ページの統計のところなんですけれども、ちょうど私どもが指定管理で始めさせていただいた令和4年度からの掲載となっているんですけれども、このデータの検証というのがなかなかできていないんですけれども、令和5年で一旦令和4年と比べてちょっとへこんだ貸出数とかがあったんですけれども、令和6年になって持ち直して、元に戻っているかなというところです。

来館者数に関しては、順調に伸びてはいるんですけれども、これをどういった原因かと考えたところで思い当たるのが、令和5年の途中なんですけれども、ちょうど令和4年のところで引き継いで、まだコロナの残り香というか、そういったところもありまして、令和5年の利用が見込まれる夏の前に、6人がけの席をそれまでは4人がけで使っていたと

ころを、それより前の状態、6人がけに戻して、より多くの利用者さんが座って読書できる環境に戻したというのが大きな要因ではないかなと思っております。それが徐々に浸透していったのか、令和6年に入りましてかなり利用者数が増えて、私どもの体感でも増えたなというような感じで、ありがたい話なんですけれども、実際のところ、貸出数にそこまでそれが反映しているかというところ、そこまでではないというようなところが課題ではないかなと思います。

先ほど砧図書館の御報告にもありましたけれども、学習利用がメインというところで、もう一心不乱に勉強されていて、なかなか図書のほうまでは目が向けられていないのかなというような感じが私からは見受けられます。

今回の報告に関しましてなんですけれども、17ページに戻っていただきますと、第3次図書館ビジョンの基本方針の中で、本の世界をより深く理解するための様々な学びの機会の提供というところで、私どもは課題として大人を対象とした本や読書に親しむようなイベントが少なかったというところを課題とさせていただきました。令和4年に私どもは受託させていただいたんですけれども、図書館員もそうですし、この御支援いただいている団体さんとか、あと区民の方々の御要望もやはりお子様向けというような要望が大変多くて、それに応えようというところで頑張ってはきたんですけれども、まさにそれに対して、ちょっと大人向けのイベントが少ないかなというところもありまして、このような課題を設定させていただきました。

目標としては、現代的な魅力のあるイベントを企画して、より深い学びにつながる機会を提供するということで、今回こちらの資料に載せさせていただいているイベントを2つ、新しく実施をさせていただきました。1つが「知ろう！使おう！Chat GPT」というイベントでございまして、AIが浸透している中での企画なんですけれども、まず、講師にAIが世に与えた影響や、今後どういった世界になっていくのだとか、そういった一般的な講義をした後に、参加者12名を3つのグループに分けて、グループ内で地域や暮らしにおける課題を検討していただいて、その改善策をChat GPTに投げて、それにどういった反応があるのかということを見ていただいて、さらにそれを企画書に仕上げてくだいみたいな指令をChat GPTに投げかけて作成するというイベントを行いました。

続いて、もう一つのイベントが「ウィキペディアタウン 調べて伝えてまちのこと」ということで、企画です。このウィキペディアタウンというのは、ウィキペディアは皆さん御存じかとは思いますが、このウィキペディアの記載を、その町のことを地域の

住民の方に自分たちで発信をして、よりほかの世界の人、日本語なのでなかなかあれなんですけれども、世界の人に情報を伝えることによって、地域のにぎわいを増やすというような企画がウィキペディアタウンということで、それを私どもでもぜひ烏山でということで、講師をお招きして実施いたしました。近隣のエリアである烏山寺町をモチーフに、烏山みずとみどりの会の方の御協力をいただきまして、まず、まち歩きをいたしました。その中で、利用者の方々がここはいいところではないかというような発見をして、それを図書館に戻って、図書館資料を使いながら、ウィキペディアの情報を更新して、地域に発信、世界に発信していくというようなイベントでございました。

もう一つ、第3次図書館ビジョンの基本方針の中から、区民や区内団体、関係機関との連携という項目がありまして、この中で私どもの課題としては、配慮を要する方々に向けたサービスのPRが足らなかったというような課題を設定させていただきました。それに関しまして、目標としては、関係機関との連携で発信力を高め、図書館で実施しているサービスの認知を広げるということで目標を掲げました。これに対しまして実施したのがイベントです。「手話 もう一つの言語のこれから」というものを実施させていただきました。こちらは、令和6年度に世田谷区が手話言語条例を制定されまして、それに合わせて手話のイベントを企画してはどうだろうかということで実施をいたしました。NPO法人の世田谷区聴覚障害者協会様と連携させていただいて開催をいたしまして、まずは講師の方々に、日常生活の中で音が聞こえないと困る場面というのはこういったことがあるんだよということを、生い立ちや日々の生活を通じて、ちょっと楽しくおかしくというような感じで講演をしていただきました。御自身がどういった経緯で手話を獲得していったとか、当事者である実体験に基づいてお話をしていただいて、皆さんにも大変御好評いただきました。

続きまして、その中で、少し間の時間には、デフリンピックが来年開催されるということで、そのあたりの紹介動画を流したり、その後に、ミニ手話講座ということで、基本的な挨拶表現や指文字を使った名前の使い方を習って、イベントにしました。今回のイベントに際しましては、手話通訳や要約筆記を手配させていただきまして、ふだんは図書館のイベントにはなかなか御参加しにくい環境の聴覚障害の方々にも多数御参加いただけた大変いいイベントになったのではないかと思います。

続いて、障害者向けの……。

○会長 すみません。時間の関係でちょっと急いでもらえませんか。

○鳥山図書館長 すみません。障害者向けのチラシコーナーの設置をさせていただきました、こちらでもNDC、十進分類法が10版になって変わったところで、手話、その他が8類に変更になったということを併せまして、8類の書架に手話や点字の資料、チラシなどを置いているというのを取組としてやっております。

ちょっと時間がないということで、以上で、よろしくお願いします。

○会長 ちょっと時間の制約もございまして、申し訳ありません。

皆さんから質問なり意見なりを出していただきたいと思います。この鳥山図書館のただいまの説明につきましてはいかがでしょうか。

すみません。説明を途中で遮ったために質問も出ないのかもしれませんが、特になければ説明を続けていただきますが、よろしいですか。ほかとはちょっと違ういろんな試み、Chat GPTだとかウィキペディアタウンの試みをやっていますので、何かございますか。

説明が今ちょっと途中をはしょったとすれば、追加でというか、その部分をしていただいても結構ですが。

○委員 17ページの取組項目の(1)が「大人を対象とした、本や読書に親しむようなイベントが少なかった」とあるんですけれども、行われたイベントは、そこまで本や読書に親しむようなイベントではないかなという印象があるんですけれども、令和6年度は8回行っているようなので、ほかはどんなものがあったのか教えてください。

○鳥山図書館長 朗読会とか、あとは和とじ体験とか、あとは一般向けということで、その後に紹介している手話のイベントも、一応これの数字にカウントさせていただいているというような感じです。

○会長 和とじと今言われたの。和装本のとじ方みたいな話。

○鳥山図書館長 そうです。こちらにも講師の方に用意していただいているんですけれど

も、日本古来の本のとじ方、そういったものを体験していただくということで……。

○会長 なかなか多彩ですね。Chat GPTから和とじまで、手話もやるし、極めて多彩といえば多彩で、目標としては、大人を対象とした、本や読書に親しむようなイベント、そう言われればそうかなと。

○委員 ほかの館にはないユニークなイベントを企画、実施なさっていて、すごいなと思いましたけれども、ウィキペディアタウンのほうは、図書館の活動と結構密接に関係があるように思います。私自身行ったことがあるんですが、地元の市立図書館と連携して、ウィキペディアの項目をつくるための調べ物に随分協力していただきました。これは本当に図書館のイベントっぽいなと思ったんですが、Chat GPTのほうが図書館の利用と——関心を持ってもらうということではよいかなと思うんですが、図書館の日頃の活動とあまり関係ないように思うんですけれども、そのあたりはいかがでしょうか。

○鳥山図書館長 おっしゃられる趣旨は大変よく分かるというか、あまり図書の利用にはとお思いになられるのも、そうじゃないかなと私自身も思ったりもするんですけれども、やはりこれからの時代はという言い方になってしまうんですけれども、こういった御要望がやはり多いかなというところもありまして、その前の年などは、プログラミングの講座とか、タブレットの活用講座などもさせていただいたんですけれども、ちょうどこの令和6年度の最初のところで、このChat GPTが世間でもすごく現れた年ではなかったかなと思っております、こういった企画をいたしました。

この後の自己評価のところにも書かせていただいたんですけれども、我々もこのイベントを実施して、半年ぐらいしたら、もうそれが本当に過去のものというぐらいな、こんなイベントでは物足りないというような、実際にお二方ぐらいの男性の職員からはもっと深い内容でという御指摘もありまして、最初の段階ではコンピューターも使ったことがないぐらいの方も想定してのイベントでしたので、今後はこのChat GPTとか、A I とかの進化に我々も追いついていかないと、こういったイベントもなかなか企画できないかなというところと、やはりこういったA I の結果をまた検証、それが正しい出力であるのかを検証するのはやはり本ではないのかなというところもありますので、うまく使っていくというか、共存できるような感じの方向で行きたいなと考えております。

○会長 これは継続するんですよね。単発で終わるんですか。

○鳥山図書館長 講師の問題もありますので、来年度とかということはまだ決まっていないですけれども、できれば継続はしていきたいと考えております。

○会長 ぜひ継続して、今言われるように、本の持っている知識だとか情報というのと、Chat GPT、生成A I がつくってくるような情報とがどう違って、どちらにどういう利点があって、限界、欠点があるのかみたいなものを比べていくというのは面白いと思うし、従来図書館に足を運ばなかったような人も、これで図書館に足を運んでくださると思うんですよね。だから、単発で終わることなく、継続して行って、どんな人たちを集めていて、どんな問題意識を持つのかもフォローしていただけると発展性があるように感じました。ぜひ御検討ください。

○鳥山図書館長 検討いたします。

○委員 ちょっと2点お伺いしたいんですけども、今の(1)の機会の提供のところ、8回実施されたと書いてあって、今伺った4回プラス2回で200名と参加人数が書いてあって、今取りあえず分かっている数字を引いたら、残り120名ぐらいがその2回に参加したのかなみたいな、数のことがどうなのかなというのが私は分からなかったもので、そのこと。

あと前回の協議会からの話で、今、会長がおっしゃったんですけども、結局新しい図書館の利用者を掘り起こしたのであれば、そういったところの検証というか、どういった人たちからお話が来たかというのを改めて検証されたのかということと、もう一つ、せっかくの指定管理のやり方を何か新しく試されたのか、その結果みたいなものが、それが4年、5年の話なので、一応たって、今現在、これがやっぱり特徴というか、ならではの方法ですといったようなものがあるのかどうかというのが、2点お伺いしたいと思います。

○鳥山図書館長 人数のところは、正確なところを今すぐにお出しできないかもしれないんですけども、先ほど申し上げたんですけども、朗読会をやっている、それが年

に3回、4回ぐらいやっていて、大体30人前後の御参加等をいただいているので、恐らくそれぐらいの数字になっていくのではなかろうかと思います。

○会長 先ほどの説明だと、右ページの手話の60人も含めているようなことをおっしゃっていましたよね。

○鳥山図書館長 そうですね。

○会長 そういうのが入って、全部で200名になっている。

○鳥山図書館長 先ほど、前回のこの協議会での反省材料というか、検証ができていないのではないかとということで、その後、必ずこういったイベントに際しましては、アンケートに、初めてですかとか、そういったものを必ず盛り込むようにして検証しているんですけども、はっきり申し上げますと、人数が多い少ないもあるんですけども、平均すると、大体20名前後の参加者のうち、図書館をはじめて利用したという御回答をいただくのは、ほんの1人か2人ぐらいで、大体もう図書館は利用されている方がメインだったというのが現状でした。

それがまた、お1人、お2人が継続して図書館を利用されているかどうかということを検証というにも、検証する方法がなかなか難しいなというのが痛感したところでございまして、先ほど冒頭にも申し上げたんですけども、鳥山図書館は非常に恵まれているといえますか、私どもも令和4年度に受託したばかりの頃は、これまでの私たちがほかの自治体で実施してきたような、どちらかといえば住宅地などにぽつんとあるような図書館などは、本当に来てくれないみたいなのところもあるので、こういったイベントを通じて、とにかく一旦足を運んでいただくというようなところで、私たちのヴィアックスはやっているところが多いということもありまして、こういった形でイベントをしているんです。正直私がこれまでやってきたところでいいますと、鳥山図書館はそんなに必要ないは言い過ぎですけども、かなりの利用者さんが来てくださっているところもありますので、ほかの取組でやっている地域の方、今後のイベントは、やっぱり地域の団体などと連携していくほうがよいのではないかと、3年間やっていく中で感じているところですので、いわゆる網を広げて、新規の人を広げるというよりは、やはりこの地域の方々と向き合って、

関係性を強めていく方向でのイベントにシフトしていこうかなと考えております。

○会長 ありがとうございます。今、最後に言われたのはやっぱり大きなテーマだと思います。これまで図書館に足を運んだことがないような人たちを引きつけるというのは、私はそれはそれで価値があるし、大事なことだと思います。一方で地元の団体だとか、組織、機関との連携というのも大事だし、これは今日、烏山の図書館だけの問題ではなくて、世田谷区の図書館全体に関わってくる問題だと思います。いずれ評価、検証が終わったところで、先ほどの学校との連携の話とか、それから今日途中で出ました例の自動貸出機の活用を推進するにはどうしたらいいのかみたいなことは、全体を貫くテーマとして、いずれ取り上げていきたいと思います。

今日は5館を取り上げて、それぞれの評価、検証をやり、もう時間も参りましたので、一旦ここで議論としては終わらせていただきたいと思います。継続すべき問題点が何なのかというのも浮かび上がったように思いますので、いずれそれは今年度の最後のほうにでも取り上げて、皆さんと議論させていただきたいと思います。

5館の館長さん、副館長さん、どうもありがとうございました。

一通りの報告と質疑が終わりましたので、議事としては最後、その他事務連絡となっておりますが、これについては何かありますか。

○事務局 今日は本当にお疲れさまでした。次回は同様に5館分、下馬、深沢、桜丘、尾山台、上北沢で、7月29日火曜日、同じ時間から開催を予定しております。ぜひ引き続きよろしくお願いします。資料のほうは出来次第、お送りさせていただきたいと思っております。

また、本日お渡しした昨年度の第3次図書館ビジョン取組内容の確認・意見シート最終版については、近日中にホームページでも公開をさせていただきたいと思っております。

以上でございます。

○会長 ありがとうございます。お約束の時間のちょうど8時半になりましたので、これで会議としては終わらせていただきますが、既に御案内のように、次回は7月29日火曜日、同じく6時半からこの会場で会議を開きます。事務局から今紹介がありましたように、各館取組シートが事前に送られてまいりますので、本日と同じような形式で質疑応

答、そして提案を出していただければと思います。

それでは、令和7年度の第1回図書館運営協議会、これで終わりとさせていただきます。皆さんどうもありがとうございました。

それから、改めて5つの図書館の館長さん、副館長さん、どうもありがとうございました。

午後8時31分閉会